

2016年ミュンヘン国際音楽コンクール優勝

進化を続けるパリの精鋭カルテット

カルテット・アロド

ハイドン：弦楽四重奏曲 第79番 ニ長調 Op.76-5 「ラルゴ」
Haydn: String Quartet No.79 in D major, Op.76-5 "Largo"

クルターグ：ミハイイ・アンドラーシュへのオマージュ ～弦楽四重奏のための12のマイクロリユード Op.13
Kurtág: Hommage a Mihaly Andras, "12 Microludes for String Quartet", Op.13

シューベルト：弦楽四重奏曲 第14番 ニ短調 D810 「死と乙女」
Schubert: String Quartet No.14 in D minor, D810 "Death and the Maiden"

Quatuor Arod

Jordan Victoria Alexandre Vu Tanguy Parisot Samy Rachid

京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ Kyoto Concert Hall Ensemble Hall Murata

2020年4月22日(水) 19:00開演 (18:30開場) Wednesday 22 April 2020, 19:00~

© Marco Borggreve

全席指定 ¥3,000 *会員 ¥2,700 | 一般発売:2020年1月25日(土) | *会員先行:2020年1月19日(日) *京都コンサートホール・ロームシアター京都Club(会費:1,000円)と京響友の会の会員が対象です。

主催●Eアーツカンパニー 共催●京都コンサートホール(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市 後援●村田機械株式会社
お問合せ●京都コンサートホール tel.075-711-3231 10:00~17:00/第1・第3月曜日休館(休日の場合は翌平日)

※未就学児のご入場はご遠慮ください。 ※やむを得ない事情により、曲目等が変更になる場合があります。公演中止以外による払い戻しはいたしませんので、あらかじめご了承ください。

個性と個性がぶつかり合って作り出す、熱気と調和

弦楽四重奏は室内楽の王者だ。4人の弦楽奏者たちが、それぞれの役割を果たし、互いに語り合いつつ、ひとつの響きを作り出す。そのどっしりと手応えのある、洗練された統一感。

しかし、最近では、そうしたイメージを超えてしまうような、新しいタイプの弦楽四重奏団も台頭してきている。その最先端にるのが、カルテット・アロド。第一線で活躍する、もっとも平均年齢が若い弦楽四重奏団だ。パリのコンセルヴァトワール在学中に出会った4人によって2013年に結成。2016年のミュンヘン国際コンクールで優勝し、一躍脚光を浴びた。

デビュー・アルバムでも取り上げたメンデルスゾーンの四重奏曲では、聴き手に息をする隙も与えないような、個性と個性がぶつかり合う、切迫感にも似た熱気があった。それでいて、それぞれの高揚感がふっと重なるのか、バラバラな印象がない。サッカーでいえば、パスする相手をまったく見るこなしに、次々にパスを繋いでゴールまで運んでいくような。最初からキチンと合わせましょう、といった申し合わせなしに達成される、この妙なる調和。互いに強い信頼感がなければできない芸当だ。

そのカルテット・アロドが、京都コンサートホールへ帰ってくる。2017年の初来日から変わったのは、2018年にヴィオラ奏者が交代、室内楽のスペシャリストであるタンギー・パリソが加わったこと。シェーンベルクやツェムリンスキーの作品を収録した新譜を聴くと、従来のめくるめく闊達さに加え、曲によっては落ち着いた統一感もある。より幅が広い演奏になったのだ。

今回の公演は、ハイドンの弦楽四重奏曲で始まる。古典派四重奏曲の規範といえる音楽に、彼らがどのように取り組むのか興味深い。そして、ハンガリーの巨匠作曲家クルターグの「12のマイクロリュード」は、静謐さのなかに、表現力の強さが滲む。メインに置かれるのは、シューベルトの名作「死と乙女」。彼らのそれぞれ微妙に違う歌謡性が重なり合い、壮大な共鳴を響かせるのではないかと。

鈴木淳史(すずきあつふみ/音楽評論家)



カルテット・アロド (弦楽四重奏) *Quatuor Arod*

ジョルダン・ヴィクトリア (ヴァイオリン) *Jordan Victoria, Violin*
アレクサンドル・ヴ (ヴァイオリン) *Alexandre Vu, Violin*

タンギー・パリソ (ヴィオラ) *Tanguy Parisot, Viola*
サミー・ラシド (チェロ) *Samy Rachid, Cello*

2013年結成。マチュー・ヘルツォーク(元エベヌ弦楽四重奏団ヴァイオリン奏者)、ジャン・シュレム(元ロザムンデ四重奏団ヴァイオリン奏者)に師事。また、アルテミス・カルテット、エベヌ弦楽四重奏団、ディオティマ弦楽四重奏団の指導も受けている。

14年FNAPECヨーロッパ・コンクール第1位、15年ニールセン国際室内楽コンクールでは第1位ならびにカール・ニールセン賞および新作演奏賞を受賞、さらに16年ミュンヘン国際音楽コンクールで優勝し、大きな注目を集めた。また、17年イギリスBBCラジオ3の「ニュー・ジェネレーション・アーティスト」に選出される他、18年にはドイツ・エコー賞クラシック部門で新人賞を受賞。

フィルハーモニー・パリ、ルーヴル美術館オーデトリウムをはじめとするフランスのコンサートホール、ロンドンのウィグモア・ホールおよびバービカンセンター、ブリュッセルのパレ・デ・ボザール、ザルツブルク・モーツァルトウム、ウィーンのコンツェルトハウスおよび楽友協会、アムステルダム・コンセルトヘボウ、チューリッヒ・トーンハレ、ベルリン・フィルハーモニー、エルブフィルハーモニー・ハンブルク、ストックホルム・コンサートホール、そしてカーネギーホールをはじめとする欧米の主要コンサートホールの多くに出演。また、ヴェルビエ、モントルー、エクサン・プロヴァンス、サロン・ド・プロヴァンス、フォル・ジュルネ、パブロ・カザルス、ハイデルベルク、ラインガウ、メクレンブルク=フォアポンメルン、ブレーメン、ヴェルツブルク・モーツァルト音楽祭、ブラハの春を含む著名国際音楽祭に招かれている。初来日は17年。

アマハイ・グロス、アントワン・タメスティヤ・ヴィオラ奏者、エリック・ル・サージュ、アレクサンドル・タロー、アダム・ラルームといったピアニスト、マーティン・フロストをはじめとするクラリネット奏者、ラファエル・ピドゥー、フランソワ・サルク、ジェローム・バルノー、ブルーノ・フィリップなどのチェロ奏者と共演。

17年エラート(ワーナー・クラシックス)と長期専属契約を結び、メンデルスゾーン作品のアルバムでCDデビュー。19年秋、シェーンベルク、ツェムリンスキー、ウェーベルンの作品を収録した最新アルバム『マティルデ・アルバム』をリリース。メセナ・ミュージカル・ソシエテ・ジェネラルをはじめとする複数の団体、地域から支援を受けている。

京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1番地26
<https://www.kyotoconcerthall.org>



地下鉄丸線「北山」駅①③番出口南へ徒歩5分

北山クラシック倶楽部2020 カルテット・アロド

2020年4月22日(水) 19:00開演(18:30開場)

全席指定 **¥3,000**
*会員 ¥2,700

一般発売:2020年1月25日(土) *会員先行:2020年1月19日(日)

*京都コンサートホール・ロームシアター京都Club(会費:1,000円)と京響友の会の会員が対象です。

●チケットのご予約

京都コンサートホール チケットカウンター tel.075-711-3231 10:00~17:00/第1・第3月曜日休館(休日の場合は翌平日)

ロームシアター京都 チケットカウンター tel.075-746-3201 10:00~19:00/年中無休(臨時休館日を除く)

ローソンチケット[Lコード52335] tel.0570-084-005 24時間自動音声

24時間
いつでも!

オンラインチケット購入 京都コンサートホール

検索

※未就学児のご入場はご遠慮ください。 ※やむを得ない事情により、曲目等が変更になる場合があります。公演中止以外による払い戻しはいたしませんので、あらかじめご了承ください。